

1、朝浦

朝浦村

・朝浦村より舟津町村八町 朝浦村より梨ヶ根へ十三町
 ・高四十二石一斗四合、(中略) この反別五町五反二畝十八歩
 (中略)、非平地、坂懸にて地面は寺林村同様の所也、(中略)

・当村は前に記し置き候通り民家も二ヶ所にあり、家数大小
 二十六軒あり、うち百姓は六軒あり、その他は商人なり。
 ・寺なし、宮森あり【八幡宮】この境内一反四畝十二歩【毘沙
 門堂】地十一歩あり。
 ・板橋、引渡橋なし。
 ・朝浦の本村より舟津町村まで



- ① 藤橋跡
- ② 三夜堂
- ③ 愛宕山
- ④ 朝浦八幡宮
- ⑤ 道祖神
- ⑥ 朝浦不動
- ⑦ 毘沙門堂
- ⑧ 折橋跡

の間坂道なり。当村百姓六軒
 萱葺その外樽葺板屋なり。
 『飛騨国中案内』

『飛騨国中案内』梨ヶ根
 村の項に、梨ヶ根村から朝
 浦村へ行く道は、本道でな
 く、本道筋は、梨ヶ根より
 直に舟津町村へ行くのがよ
 いと書かれている。つまり
 『飛騨国中案内』が書かれ
 た江戸中期には、越中東街
 道は梨ヶ根から山田川へ下
 り、折橋を渡り、山田川沿
 いに舟津の町へ出るのが本
 街道であり、朝浦本村(上
 朝浦)を通る道は、脇道
 (村通り)だったようであ
 る。
 しかし、梨ヶ根を経て、
 越中東街道(大東筋)に道
 をとって富山方面をめざす

場合には、折橋から上朝浦へ登り、上朝浦から八幡宮の麓近くを過ぎ、神坂を下って、藤橋に至るコースが地形的には最も合理的で、最短距離の道筋といえる。もつとも、梨ヶ根から舟津町村へ直行できる本道筋に比べると、梨ヶ根く折橋く上朝浦く神坂く藤橋のルートは、やや細道であったようである（岩垣忠一「越中元街道と朝浦村」『ふるさとロマン高原郷』）。

なお、文化元年の朝浦村絵図には、折橋く上朝浦く洞雲寺の金比羅様裏手と推定される道が記されている。

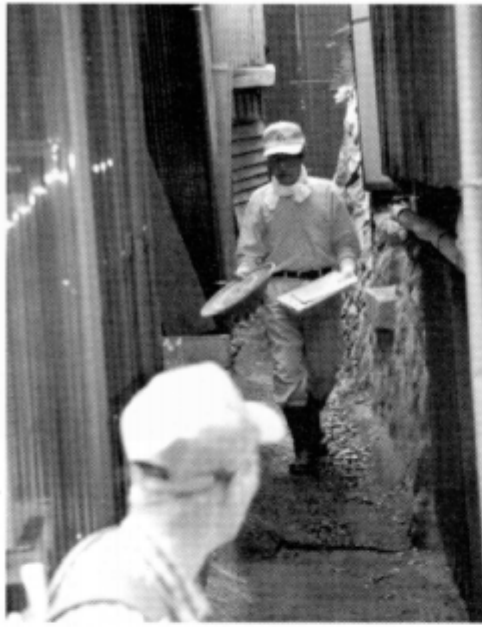
○藤橋く折橋ルートの探索

高原川左岸藤波橋詰めに常夜燈が建っている。ここを出発点とし、藤橋く折橋のルートをたどる。

前方には坂道があり神坂とよばれている。街道は、藤波遊歩道入口付近、東雲勲さん宅の裏を通っていたようだ。

（以下坂田房夫さん、上義孝さんご案内による）。

甲谷さん宅裏の路地を抜けると朝浦公民館にぶつかる。



この狭い路地が道跡

道は公民館の敷地を突き抜け、土手を左に巻いていたとのこと。急な崖を登り、墓地に出る。墓地の左手から少し登れば、昔刈り取った

稲を干したといわれる「いなしば」と呼ばれる高台の畑にでる。この右下に三夜堂、延命地藏の祠がある。さらに登ると愛宕山に愛宕神社の祠と猿田彦大明神の石碑が建っている。猿田彦大明神は道の神様であり、この道筋が街道であった証であるとのこと（東雲勲さん談）。

それより先へ進むと朝浦八幡宮へと出る。このあたりは、道筋がはつきりとしなが、表参道を通ったといわれる。「いなしば」、愛宕山、八幡宮のあたりは、八幡山城址であり、八幡宮の北と南に、堀切や堅堀の跡が残っている。その先、八幡宮の大鳥居（天保六年、一八三五年建立）をくぐり県道へ出る。

まっすぐ南へ進むと釜崎、吉田、東雲方面へ。街道は北西へ進む。県道の左手に観音山巡拝道の看板や道祖神の祠があり、ここで左折し、旧神岡鉄道のガードをくぐって、不動橋があった跡地から不動堂に向かう。道の両側には、不動橋と書かれた当時の親柱が今も残っており、右手には石仏が祀っている。

小さな谷に沿って進み、急な石段を登ると、不動様を祀るお堂がある。この谷の上流には、「寺屋敷」と呼ばれる所があり、真言宗のお寺だったとの言い伝えがあるという。お堂の横から坂道を登ると田畑がある平地に出る。田畑の間を通り、立達磨への車道に出る。道路下にある上朝浦の上家の墓地で、五輪塔等を見ることが出来る。

それより先、道は、上朝浦四軒衆の集落へ向かい、東さん宅道上にある毘沙門堂に出る。ここには庚申様が祀られ、観音山巡拝の第三十二番の石仏も祀られている。